

其他	純粹ニ依ル者 父母ニ依ル者	女中	家事監督	家庭教師	人			父母及姉
					母及附添	叔祖父母及	母及兄	
一四	八六	三	三	三				
二二	七九							
二四	七六				五	三		三
	一〇〇							
二四	七六	三	三		三		三	
二三	七七							

此表に依つて見ますと、第一部のやうに社會の上、及上の部に位する家庭に於て、最多數が使

### 「エミール」の幼兒教育の感懷 (四)

用する召使の數は三人で、最多きは十二人、第二部に在つては、最多數の家庭は召使を有たぬのであります。而して多數の召使を用ひて居る家でも、其多數は一人の幼兒に對して誰か定まつた一人の召使を附けてあつて、之れに主として衣服の着脱とか食事の世話とか送り迎ひ等をなさしめるのであります。併しかくの如き附添人が幼兒に與ふる感化は中々少くありませんので。本園では受持の保姆が日々起る特別な出來事に就て、是等の人々に注意を與ふるのみならず、毎月一回主事から幼兒の取扱其他に就て話をするになつて居ます。又幼兒の躰に對しては第一部第二部共母親及兩親が主として之れに當つて居るのは實に喜ばしいこととであります。

#### 四、眞の教育者

僞れる今の世よ。誠心の花の咲き出でむとする  
縁り子の行く手を守り導くべき人は何處にかくれ  
たのであらう。名のために利のために金錢のため  
に將た又單なる生活の爲に花園の花守とならむと  
する今の世の人よ。如何なればかゝる心をもつて  
美しき幼な子の心を導かうとはするのであるか。  
誤れり、誤れり。僞れる心と誠の心と、何れが導  
き何れが導かるべきものであらうか。僞  
れる心こそ誠の心に導かれ、幼な子こそは今の世  
の人の心を導くべき尊い寶を胸に秘めて居るので  
はないであらうか。然るを人は年の進めるを導く  
資格の唯一に數て居るかのやうに、我れこそは教  
育者であると言はぬばかりに、しかも多くは時々  
折々の出來心に任せて清い幼な子の心に汚れの塵  
を据ゑやうとして居るではないか。何といふ誤れ  
ることであらう。これが果して眞の教育者であら

うか。

我が心の底の叫びは直にこれに應じて否と答へ  
る。己が出來心に任せて子供を扱ふとき繊弱な子  
供の心はたい損はれるばかりである。子供の心を  
損ふことが何れに眞の教育であらうか。眞の教育  
は自然の道を辿らねばならぬ。不自然な道を進め  
ばこそ幼な子の心を損ひもすれ、自然の道を辿る  
教育者が何とて幼な子の心を損ふことのあらう  
か。然らば自然とは何事であるか。ルソーは教  
へて言ふ、墮落せる人意を加へざるもの此の心即  
ちこれ自然であると。實にや墮落せる人意は一時  
的の出來心の基となる。天理の自然は悠々として  
行はれるのに人意の不自然は屢々障礙にあふもの  
である。此に於いてか人の心が激する。激して行  
へばなほ更に物事が行はれない。此に於いてか「方  
法！」といふ聲が起る。教育は自然の道をはなれ  
て人爲の方法の下に束縛せられて形式化せるもの  
となる。形式化せられた形式の中に於いては如何

なる人たりとも『教育の俳優』となることが出来る。しかも『俳優』によつて行はれる教育が果して眞の教育であらうか。精神のこもらぬ不自然なる名利の教育が果して眞の教育であらうか。

眞の教育を行ふの人は幼な子に學ぶことを樂しむ人である。幼な子に教へることを樂しむの人は、少くはない。併しながら幼な子に學ぶことを樂み得る人は果して幾人あるであらうか。幼な子の心に立ち入つて幼な子の生活を學び而して幼な子の友たることを無上の樂しみとする人でなければ決して眞の教育者となることは出来ない。

けれども幼な子がよく従順によく善良であつて導きの下に素直に發達するものばかりであるならばまだしも教育者たることは難くないことであるかも知れない。併し若しもその幼な子が不従順であつてなかく素直に教に従はないやうなときは如何であらうか。こんな時に今までの心が挫けてしまつてその幼な子を怒り感情の激するがまゝに

其の時の出來心に任せて幼な子を取扱ふならば教育者たるの資格はこゝに消滅してしまふと言はねばならぬ。

あゝ眞の教育者となること―世にこれほど重い役目があるであらうか。

しかもこれらの事は悉く満たされねばならぬ條件であることを思ふとき眞の教育者の得がたきことを悲しむの士は何レに一人や二人に止らうか。ルソーの述べて居るとほりに文明が進めば進むほど人は自然を遠かるといふことは眞理である。ルソーの述べるやうな自然の昔そのまゝにかへることが果して人間の理想であるか否かは疑問であるにしても近世文明の波浪の中を浮きつ沈みつ流れて行く名利の人が果して人の子を教ふるに相應しいか否かといふ疑問は答へずして明かなことである。所謂文明が進んで人が悋口になればなるほど自然の教育は去つて巧智の教育が盛んになり眞の教育者はかくれて名のみ形式的教育者が時

を得顔に増加して行く。あゝ斯様にして世は果して眞の進歩を爲すのであらうか。幼な子はむしろかゝる教育者から墮落に導かれることはないであらうか。

然らば眞の教育者とは如何なる人と言ふのであらうか。ルソーは次のやうに述べて居る。

善良なる教育者の資格に就いては屢人の言ふ所である。第一の最も重要なことはあらゆる他の資格よりも大切なことであつて教育者は單に金銭のために教育を行ふと云ふことではいけないと言ふことである。この人世には極めて高尚なる職業がある。其の神聖なる職業を下等なものにしてしまつて金銭を得る手段とするならばその價値はなくなるのである。此の神聖なる職業こそは教育者たる職業である。然らば子供を教育する任務は誰にあるのであるか。余はこれに答へて言ふ。汝自身にあるのであると。汝は子供を教育すると云ふことは出来ないと言ふのであるか。

嗚呼教育者！何と云ふ高尚な精神であらう。誠に人間を作るためには自分が父となり而して後に教育の事を行はねばならぬ。諸君はかくの如き神聖なる職業を安心して雇教師などに打ち任せることが出来るのであるか。

この事を思へば思ふほどその困難はますます痛切に感ぜられるのである。子供を教育する爲には先づ教育者を拵らへねばならぬ。その教育者は又教育に依つて養成されねばならぬ。斯くの如くにして教育の前に教育があり又その前に教育がある事を考ふればついにその最初の第一人まで教育せねばならぬ事になる。即ち自分の子供を教育する爲にこれを託する人を定むる前に幾十人の人を教育せねばならぬ理である。よき教育を受けない教育者から導かれた子供がよくなると云ふことはどうして出来やうか。

かやうな人が果して今日もとめ得られるであらうか。余はこれを知らない。この墮落せる時代に

於いて人間の精神は如何なる程度まで善美の境に進むことが出来るのであるか。誰かこれを知る者のあらうぞ。眞の教育者の資格を眞面目に考へる父親はかかる教育者をもとめることは全然不可能であると考へてあきらめるのは分りきつたことである。かゝる父親は他より教育者をもとめるよりも寧ろ自ら子供の教育者となることを望むのである。

或人が余にその子供の教育を依頼しやうとした。余はその人を知らず唯其人の名門の家柄であると云ふことを知つて居るばかりである。その人は今にその子の教育を依託すると云ふことは余に非常な名譽を與へる所以であると考へて居る。然しながらそれは間違つて居る。若しも余が其人の要求を容れて教育を行はうとするならば余が胸中にある教育法は間違となつて教育は不結果に終るに相違ない。又もし余の希望通りの教育法が行はれんとしたならば一層悪いのである。何となれば

その子供は余の希望に適ふ様になつて最早や名門の子なる事を欲しない様になるからである。』

此のルーソーの言は何を意味するのであるか。

子供の眞の教育者はその父母より外にはないといふことを意味するではないか。誠に子供の眞の教育者たる資格のあるものはその子の父母より外にはないのである。

親心！あゝ何といふ美しい心であらう。親心に發して親によつて行はれる教育ほど子供の眞の心の底までしみ入る教育があるであらうか。げに親心なればこそ名をも利をもはなれるのである。金錢をも名譽をもはなれるのである。此の心による教育こそは眞の家庭の教育であり誠の教育者の下に於ける教育であるのである。

此に自然といふことがまた生きかへつてくるのである。似て非なる文明の害毒を受けて親心を忘れる親もあるであらう。親ならぬ親もあるであらう。さりながらそれは多くは悲しむべき境遇の下

に苦しめられた結果として親心を失つた誠に不幸なるあはれむべき人々である。自然の親心が自然の間に發露して來るところには必ず眞の教育が行はれるのである。

子供が不従順であればあるほどその子供をあはれむことの出來る心は親心より外にはないのである。子供が素直でなければただに益々その子をおはれにおもふ心は親心より外にはないのである。かゝる親心の暖かな光の中に育てばこそ子供は人となることが出來るのではないが。

眞の教育者は親より外にはないのである。あゝ親としての眞の教育者、何といふ尊い名であらうか。美しくかゝりやき照す日の光にもたとへられるにはかゝる親心の教育ではないか。

眞の教育者が親であると共に眞の教育所は家庭である。家庭は親といふ眞の教育者になつて經營せられる最も尊い人生の教育の場所である。あゝ天下の人よ、何故にこれを思はぬのであるか。

此に於いてか偽りの世は消滅し去らねばならぬ。此の偽れる文明——ルーソーによれば『墮落せる文明』——の世を清めゆく力は親心より外にはない。而して我々は自ら省みて親心にかへることによつて眞の教育者としての眞の自覺に入ることが出來るのである。

斯かる立場からながむれば幼な子は實に我々を尊い親心にかへらせる縁となるべき我々の指導者である。紅葉のやうなその手は汚れたる我々の手をとつて汚れたる文明の波浪を超越させ、そして此の名利に迷はむとする我々の胸中に厚い親心の萌芽をよびおこすのである。何といふ尊い因縁であらうか。

すべての人が眞の親心にかへりさへすれば此の世は眞の教育者によつてみたまされるやうになるのである。偽りにみちたる世と誠にみちたる世とは何れが望ましいのであらうか。偽りの世を悲しむ心は誠の世を望む心ではないか。そして偽りの世

に呱呱の聲をあぐる幼な子は常に此の偽りを誠としやうと無意無心のうちにつとめて居るのに、夢幻に酔へる我々の心はいつまでもいつまでもこれをさとすることは出来ないのであるが。親心にかへることは出来ないのであるか。

日々を幼な子の友として送れる天下の姉妹たちよ。母たる自覺にかへる縁は卿等が目の前にみち

## 白痴教育者セガン

—(ポイト氏による)—

十九世紀の始の頃までは、缺陷兒就中白痴は到底教育すべからざるものと看做されてゐました。佛蘭西や亞米利加に於ては、比較的早くこの方面に着眼する人があつて白痴教育を試みた人もあつたのでありますが、何れも著しい成績を擧げる

みちて居るのに何故にこれを見やうとはせられぬのであるか。何故に一時の樂をこゝに求むるに止つてそこに永遠の親心の泉を汲まれぬのであるが。ルーソーの言葉を借り來つて思をのぶる眞意、眞の教育者の意義を悟られるならば余の言葉も亦空の空に消え失せることはないであらう。

紹 介 子

には至りませんでした。然るに千八百三十七年「白痴の使徒」エツアール・セガンが所謂生理的教育法を創始して著しい効果を收め得た爲めに、人々は漸くこの方面に注意するやうになり、一般教育の進歩と共に缺陷兒の教育も次第に進歩するやう